

[試験紹介]

アスパラガス高畝栽培における施工様式の影響

アスパラガス生産者の中には、栽培開始から 20 年以上経過したほ場もあり、根域環境の悪化や病害による欠株により、生産力の低下が課題となっています。その対策として改植が行われており、その方法の一つに高畝栽培があります。高畝栽培は、直管パイプやあぜ波板等を用いて、高さ 50～60cm の畝を形成し、その上に植栽する方法です。施工様式にはいくつかの種類があり、設置に要する労力やコストが異なります。

そこで、「アスパラガス用高畝ベンチキット(株式会社クボタ製)」と「あぜ波板」を使用した高畝について、それぞれ作業時間、経費等を調査、評価するとともに、施工様式の違いがアスパラガスの生育に及ぼす影響について試験を行っています。

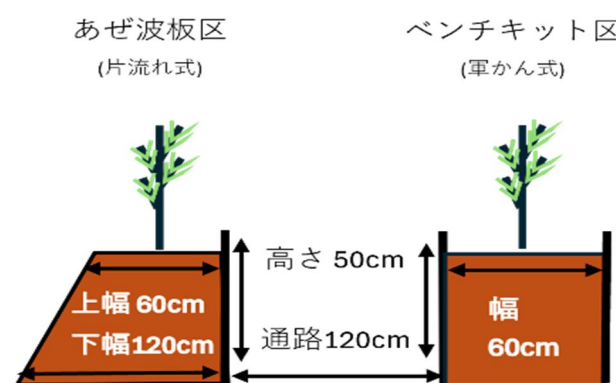


図1 高畝施工様式の模式図



図2 施工完了後の写真

(左：あぜ波板区、右：ベンチキット区)
(野菜研究室)

[試験紹介]

夏越しねぎにおけるリビングマルチによる地温抑制

本県のねぎ栽培は、春に定植して夏を越し、秋から収穫を開始する秋冬どり作型が主流で、高品質・安定生産がなされてきました。しかし近年は、夏季の高温・乾燥の影響により、生育停滞や管理作業に遅れが生じ、高単価期の9～10月に収穫されるねぎの品質低下や収量減少が問題となっています。

そこで本試験では、夏季の生育停滞を抑制し、高単価期における上位等級品の安定出荷を可能とするため、リビングマルチの活用方法について検討しています。リビングマルチとは、主作物と同時期に生育する植物で地表面を覆い地温上昇を抑制する技術です。本試験では、ねぎの畝間に大麦を栽培することで、地温抑制の効果を調査しています。



図1 ねぎとリビングマルチの様子

(野菜研究室)